

牧師室から (2022.10.16)

過ぐる主日は、代務をしている横浜の教会に行き礼拝を守った。そして、礼拝後に三浦半島にあるお墓にバスで行き、コロナ禍で休止していた墓前礼拝を3年ぶりに行った。小一時間ほどの道のりだったが、おしゃべりしていたのであつという間に着いた。

墓地は三浦半島の先端の方であったが、実は私は半世紀ほど前に一度そのあたりに行ったことがある。丁度中3の夏休みで、理科の自由研究のために、地層を調べに人生初めて少し遠めの一人旅をしたのである。パターロールをいくつか持って、電車とバスで半島の先まで行った。そこで印象に残っていたのは岩山に横穴がほってあり、そこが倉庫となっていたことである。今でもその穴の奥の暗さが心に残っていて、聖書を読むとラザロが出て来るのは、私の中では、この横穴のイメージなのである。

結局あまり実りなく帰ることとなったが、帰路は無謀にもそこから逗子まで歩くことにした。地図もなくただ海岸線を歩いていけば着くのだろうと思ってひたすら歩いた。でもさすがに疲れて、油壺まで来て少し休み、たまたまそこに来た横須賀行きのバスに乗って帰ったのを覚えている。旅の途中で出会った一期一会の人たちの後を引かない親切や会話が懐かしい。これこそ旅の醍醐味であると言えるのではないかと思っている。そのようなことを考えながらバスの車窓から外の景色を眺めていた。

今度の主日はいよいよ海老名教会の墓前祈祷会である。

(鈴木淳一牧師)